

草の芽句会たより

NO,101
29, 1, 5

白鳥の羽毛逆立て、風を除け

文子

工夫たち仕事初めの霜を踏む

芳子

てっぺんの大木も冬の姿かな

貞子

冬晴れや瀬戸内海の波静か

禮子

添書の一行嬉し年賀状

節子

冬空の青く広がる天主閣

貞

おだやかな三ヶ日すぎて初句会

純子

正月の街の音きく帯曲輪

剋子

篝火の火の粉飛び散る除夜の鐘

範子

師に見ゆ想い句碑に初詣

出席者 小林 真鍋 氏家 大黒 馬場 川原 森 小山
投句者 吉崎



元旦から冬晴れのいいお天気が続いている。今日も目の覚めるような青空。頑張って天主閣へ上る。お喋りをしながらあつという間に二の丸到着。お目当ての十月桜は満開であった。薄桃色の花が空を向いて寒風に揺れている様は可憐で力強い。初句会は久しぶりに大勢の出席、お菓子の差し入れもあって盛り上がる。佳句が出そろい選句に頭を捻ることしきり。「大勢はええなあ句会が充実する」「美味しいケーキやお煎餅のせいもあるわな」新しい年が始まった。元気で好きな俳句を楽しみボケ防止?も兼ねて続けていくことを皆で約束、記念写真を撮る。なにしろ一〇〇回を超えたのだもの、私達ってすごいね。

エッヘン!

